帝釈小学校わかくさ児童会愛鳥カレンダー

12月

ヒヨドリ（ヒヨドリ科）

木の実やこん虫を好みます。巣を作るとき、ビニールひもを使うそうです。卵は、4～5個産みます。ヤブツバキの花のみつをすうこともあります。「ピィーヨ」と鳴くから、ヒヨドリと名前がついたそうです。

5年　田辺　翔太

キレンジャク（レンジャク科）

尾の先の黄色がめだつ小太りの鳥です。木の実をよく食べます。ヒレンジャクとよく似ていますが、ヒレンジャクは尾が赤く体が黄色です。「ヒリリヒリリ」「チリチリチリ」と

5年　田辺　翔太

ながの村

【2008年12月15日発行】

〒729-1362
広島県神石郡神石高原町永野2549の1
TEL（0847）86-0215
FAX（0847）86-0045

12
2008
DECEMBER/師走

H.P/ www.naganomura.com
e-mail naganomura@image.ocn.ne.jp

平成20年を終えて

間もなく今年も終ろうとしています。ながの村の自治活動にはながの村自治振興会の会員、ふるさと会員、友の会会員の皆さまそして、神石高原町、神石高原町の行政職員の皆様に支所の行政職員の皆様にはあらゆる側面からご支援いただきまして誠にありがとうございました。

4月のロッククライマーとの交流で花面公園と周辺の草刈り。5月下旬第7回蕎麦を楽しむ会の施設利用。6月運動会にはNPO地域支援団体、トライアル競技国際ライセンス取得者の出演。そして山陽新聞社の取材。7月第14回下帝釈峡渓谷コンサート開催。中国人研修生の滞在、福山市立走島小学校の宿泊体験学習、8月は高島小学校の同じく宿泊体験学習。両小学校は民家5軒に分かれて分散宿泊。そして夏祭りはながの村住民と帰郷者で284名の参加者があり、プラチナハート・ロックバンドグループ、沖縄エイサー踊るグループの初登場で盛り上がりました。

9、10、11月と中国人フィリピン人研修生が自炊という方法で施設利用。10月はバングラデシュから視察、11月は高知県中土佐町から視察がありました。

12月村まつりで民謡団体「原田直希会」の出演。その祭りに、中国人研修生が参加し「北国の春」を熱唱して盛り上げました。

更には初めての試みとして、島の小学校が瀬戸内海の魚の減少を憂い、海への養分となる植樹を体験。

4月から12月までの宿泊客（日本人・外国人とも）は延べ2、924人（12月18日現在）という昨年並みの盛況でありました。これも一重に会員、役員の方々のこころ暖かいご支援とご理解の賜と思っております。運動会、夏まつりなどでの国際交流と海辺の小学校との交流など、さかんな1年でした。

ながの村の注目は度は相変わらすの一年でした。もちろん、運営委員会、コミュニティ委員会、永野長寿会、永野女性会、永野子ども育成会、消防団永野支部、社会福祉協議会の永野地区サロン、同好会さざんかの会、カラオケ同好会などそれぞれの会員組織が、各会員の要望を受け入れながらの活動は素晴らしいものでありました。それぞれの役員の皆様大変お疲れ様でした。お互いに讃え合つてこの一年を終えることができます。

そして最後にながの村の宿泊施設をご利用いただきました各団体の皆様、協同組合ＰＦＵ、福山市立走島小学校、同高島小学校、神辺道上、西の2子ども会、福山山岳会、広島竹部体験学習会、山陽テクノ協同組合、西日本コンストラクション協同組合、アジアビジネス国際交流協同組合、協同組合ＢＩＡの皆様には厚くお礼申し上げます。

そしてながの村自治振興会会員の皆さま、ながの村友の会会員様、全ての皆様の今後のご発展とご多幸をお祈りいたしまして今年も終えることができます。ありがとうございました。

来る平成21年（2009年）が皆様にとってよき年でありますようにお祈り致します。

村長　土屋洋三

人物紹介 Vol.40

伊藤矩夫さん（79歳）

昭和4年3月20日生まれ

伊藤さんは神石高原町相渡の水清の秋山家に5人兄弟の末っ子として生まれました。長男はニューギニアで戦死、長女は83歳で広島市内に在住、次男は相渡で秋山家を相続し81歳、次女は岡山県哲西町に嫁にいき長男以外は元気でおられます。

上着の襟にバッチをつけておられたので、何のバッジか尋ねてみました。神石高原町の農業委員をされていて、旧神石町の農業委員を4年間、合併後の町の農業委員を務めて1年目です。

農業委員は田畑一反以上、年間60日以上農業に従事していれば、農業委員に立候補できる資格があり、伊藤さんは、相渡、永野、永野南エリアの担当です。毎月1回24人で農業委員会が開催され年間30～40件の農地に関する案件があり検討しています。所有の土地の地目を変更するなど農地については伊藤さんに相談するといいです。

地元の小中学校を卒業して、油木農学校に入学、卒業後は産業組合（現在の農協）に就職し、15年間販売などの仕事に従事した。その後の高度成長期に農協を辞職し、尾道の造船所に勤めました。景気がいいときは毎月30万円以上の給料のときもありましが景気が悪くなり造船所を辞めてふるさとに帰り牛を5～6年間飼っていました。

縁あって永野の伊藤ヒロエさんと結婚し、伊藤家に入りました。牛はだんだん減っていき建設会社に行くようになり72歳まで勤めました。

現在の生活は安定していて町のシルバーセンターに登録し、元気で仕事をしています。登録者は300人もいて仕事内容は大工仕事、左官仕事、町道のパトロールなどがあり、一番多いのは草刈りです。

まだまだお元気でご活躍中です。ながの村の草刈り、竹林の伐採など快く引き受けて下さいます。高齢でも大変頼りになります。

これからもおケガのないよう二輪車の移動も事故のないようお元気ですごされることを祈っております。

赤ちゃん誕生!!

結海（ユウミ）ちゃん

ながの村に久々に　赤ちゃん誕生!!

横山結海（ユウミ）ちゃん

平成20年9月2日生

父遵弥さんと母絵理さんとの間に生まれた二人目の元気で可愛い女の子で、3,444g、51cmでこの世にデビューし、3ケ月がたちました。

平成19年5月号でお姉ちゃんの遙奏ちゃんを紹介しましたが、お母さんの絵理さんはお姉ちゃんがいるせいか「一ケ月半ぐらいで笑い出しました」と嬉しそうです。「お姉ちゃんが、結海ちゃんを抱っこしたくてしょうがないようです。まだこわいけど・・・」

お母さんに抱っこされているところを写真に撮りましたが、なかなか笑ってもらえなくて、ところがおじいちゃんの英揮さんがあやすとニッコリ!!

どのような子になって欲しいですかの問いに「姉妹仲良く、やさしくて、人の気持ちがよくわかる娘になってほしいね。」と結海ちゃんにやさしく語りかけました。

福山市立高島小学校　学習発表会

ふるさと体験学習で夏に来村した高島小学校で、学習発表会があり、民泊受け入れ宅に招待状が届きました。城後さん、見永さん江草さん、伊藤さん、村長夫婦の6名で出席しました。全員大変感動しました。

←神楽　↑全校生徒

さざんかの会　披露宴パーティ

11月30日「さざんかの会」が、この度、町民生委員児童委員会長から表彰をうけられたので、会員への披露パーティが永野老人集会所でありました。来賓には石井民生委員、国光永野郵便局長、ながの村村長が招かれ、会員同志でお互いに喜び合いました。

石井民生委員さん、国光郵便局長さんいずれも、さざんかの会の発足当時から今日までの経緯を聞かれ感心の連続で「いいですね、このようにお年寄りが寄ってお互いに自分のできることをされるのが一番よいですね。」と招かれたことを喜んでおられました。出席者は11名でした。会の活動も5年が経過したので、このあたりで代表を交代しようということになり、市場の宮崎さんに決まりました。「今後ともさざんかの会をよろしく」と言っておられました。

竹林伐採作業終了

11月23日（日）を最後に作業が終了しました。ながの村自治振興会の会員さんには、大きな事故、けがもなく無事終了しましたことを厚くお礼申し上げます。

12月10日が作業終了の期限でしたが、それよりも2週間も早く終えることができたことを喜びあいたいと思います。

作業は10月26日10名、11月1日5名、2日10名、8日5名、9日7名、13日1名16日11名、23日8名が参加してくださいました。延べ57名の作業者で約3ａの竹林伐採でした。

これでふれあいセンターながの村から花面公園への景観と見通しがよくなり、大変喜んでいるところです。

11月末に町神石支所の産業課に完了届けを提出しました。今後予想されることとして、春先タケノコがあちこちで頭をだし、大きくならないうちに切らなければいけないという作業が生じてきます。作業された方の中から、「ながの村でタケノコ狩りの企画をしては」という声もありました。

短歌

◆昇（のぼ）りくる満月眺（なが）めし日も遙るか　征きにし夫の遺影（きわ）は若し（みまごう）

三好　ハツミ

◆桜島と見紛ばかりの霧の海　永野の秋よここに極まる

◆返り咲く「河原なでしこ」霜月の　枯葉の陰でピンク華やぐ

◆遠き日の旅のアルバム捲りつつ　何時しか心四次元をゆく

田辺　明

ながの村　リンゴ

リンゴのオーナーになって二年目。和田さんのご指導を受けながら、真っ赤な大きなリンゴができました。変形あり、色ムラありの不揃いのリンゴ達でしたが、とても美味しいです。

草刈り、肥料やり、剪定、摘果、袋掛け、消毒、袋はずし等、年間の作業は楽ではありませんでしたが、小さい実が、大きな赤い玉になって収穫できたのは喜びと感動でした。

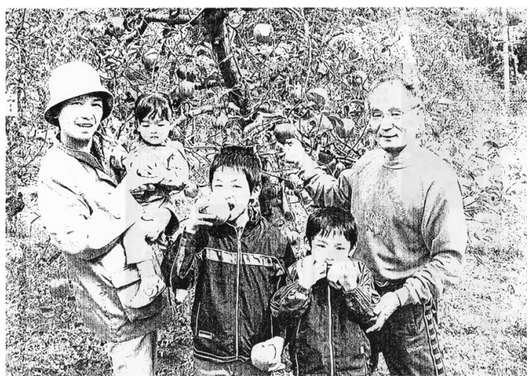
木になっているリンゴを目にした孫達は、大喜びでもぎ取りかぶりついていました。

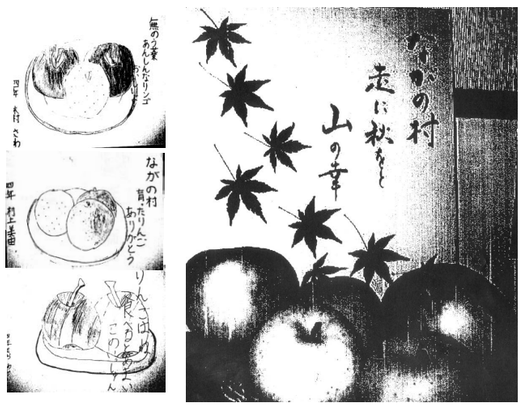
上手に作れば一本の木に百個の実がつくのですが、我が家のリンゴはほど遠く・・・。それでも友人やご近所や孫の友達にもおすそわけできました。皆さんながの村リンゴを楽しんで味わってくれました。

今夏、全校児童でながの村へ来村の走島小学校へもおすそわけしました。「ながの村の味」を学校中で味わって下さったようです。タイミング良く到着数日後の公開授業で、学習発表の朝食メニューにお役に立ったようで何よりでした。子ども達の思いのこもったながの村の俳句とリンゴの絵が届きました。

リンゴサプライズでした。他のオーナーさんにもそれぞれ、ながの村リンゴの歌が響いていることでしょう。

福山市神辺町　土屋倫子





→走島小学校より

ちょっと立ち話　第七話

あのなぁ～

上組集会所の上、この寒みいのに、桜が咲いとるんで。彼岸桜言うじゃと。年2回咲いとるで　気にして見てみ本当に可憐なんで。

12月号の「我が家の一品」「比治山大学レポート」はお休みさせていただきます。